

平成 26 年 4 月 17 日 00166 号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【弓道情報】

北見地区春期弓道講習会が開催されました！

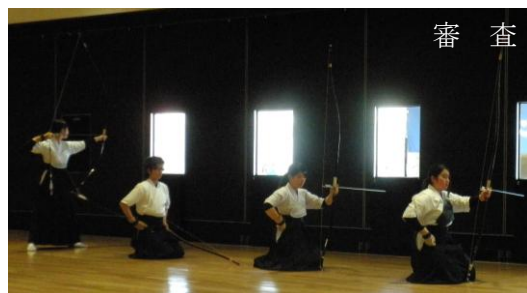
4月12日(土)講習会が北見市武道館弓道場と多目的道場を会場に行われました。主催は北見地区弓道連盟(高山節子会長)で中・高生から社会人まで136名が参加、熱心に講師の指導を受けました。主任講師には、高山節子教士六段、宮島悦子教士六段、久積克郎教士六段、今野正毅錬士六段、松平敦子錬士六段、高橋佑弥錬士五段が指導に当たり、講習会は午前9時より始まり午後4時まで行われました。



講習会

第一回地方審査

引き続き4月13日(日)は、平成26年度第一回地方審査(昇段審査)が行われました。武道の広場も有効利用し、難無く終了し、審査には初段から四段まで合計 136 名が集まりました。今回は、四角い窓からのめがけて射る方法で行いました。



審査

【剣道情報】 北見地方剣道連盟が少年剣道の講習会を開催！

4月12日(土)13時~16時迄、北見市武道館(道場2)において、北見市の剣道少年部や中学生約80名が参加、熱心に講習会を受けました。この講習会は年2回ほど行われ、基本的な稽古に加え自由稽古など太鼓を合図に元気よく行っていました。



連載 中国「老子」の思想 五十章 生に執着すれば死を招く

生死はいわば出入である。「無」から「有」に出れば生、「有」から「無」になれば死。生も死も、ひとしく「道」の現れで、本質的な差はないのだ。

生物には、長命なものもあれば短命なものもあるが、生死はそれぞれに自然である。だが、生物の中でも人間だけは、死期が来ていないにもかかわらず、みずから死を招くことがしばしばある。それはなぜか。人間が生に執着しすぎるからなのだ。

こんなことばがある。

「寿命を全うする者は、山野を旅しても猛獣に襲われず、戦に出てもけがをしない」

たしかに、猛獣も危害を加えようがなく、刀槍も傷を負わせようがないのだ。

それはなぜか。生に執着せぬ者には、死の入りこむ余地がないからである。

原文:出生、入死。生之徒十有三、死之徒十有三。人之生、動之死地亦十有三。夫何故。以其生生之厚。蓋聞、善攝生者、陸行不遇兕虎、入軍不被甲兵。兕無所投其角、虎無所措其爪、兵無所容其刃。夫何故。以其無死地。五十一章に続く